私がなぜ現在の科目を選んだか

「乳腺内分泌外科」

信州大学医学部外科学教室
大　野　晃　一

2007年に信州大学医学部を卒業した後，信州大学病院と地域病院とのたすき掛けの初期研修を２年間行いました。途中，体調不良があり休職した期間もあったのですが，何とか初期研修を終えました。当時を振り返ると，「医師としてやっていければ，何科でも良いかな」という考えも過っていました。そういった中，当時勤めていた病院の外科医師からお誘いを受け，初期研修２年目を終えた病院で外科医師として修練を積むことになりました。消化器外科をメインに後期研修の３年間を過ごし，いよいよ自分の専門分野を決める時期になりました。日本において悪性疾患で女性の罹患率１位が乳癌であったことから，「母集団が多ければ，こんな自分でも活躍する機会が増えるのではないか？」という思いがあり，また，当時勤めていた病院は乳房の手術をまれにしか行っていなかったこともあったので，外科部長にお願いして県内の乳癌手術を豊富に行っている病院に就職することになりました。それから２年半ほど乳腺内分泌外科医師として修練を積みましたが，乳癌について手術は勿論，術後の全身治療，転移再発後の診療方法など，また，甲状腺癌についてはその手術手技の妙味がこの分野の面白い点と思いました。その後，信州大学外科学教室，乳腺内分泌外科学分野の医局に入局して今に至ります。

以上が簡単ではありますが，当科目を選んだ経緯になります。現在，乳腺内分泌外科医師として外来診療を行いつつ，一方で大学院に通わせて頂き，乳癌・甲状腺癌の薬剤耐性に関する研究を行っています。一般病院勤務から大学に入局したきっかけが，「研究を経験してみたい」，という探求心からでしたので，研究の機会を与えて頂き幸甚の至りです。研究を通して様々な研鑽を積み知見を得てから，今後の臨床に生かしていき，患者さんにより良い医療が提供できるようにしていきたいと思います。

（信大平19年卒）

私がなぜ現在の科目を選んだか

「消化器内科」

信州大学医学部内科学第二教室
若　林　俊　一

学生のころ全く考えていなかった第二内科（消化器内科）に入局したきっかけは医学部６年生でのアドクリに遡ります。アドクリでの指導医と意気投合し，さらに研修先でもご一緒させていただき公私共々指導を受けた私は，消化器内科の面白さに触れたのもありますが，「この先生と一緒に仕事がしたい」という思いで消化器内科に入局を決めさせていただきました。

ほぼ指導医への憧れだけで，第二内科に入局させていただいたわけですが，その憧れの根底にあったのは「内科医になりたい」と思いでした。学生のころは何かひとつに特化してやっていきたいという漠然とした考えがありました。しかし実際，研修を始めてみるとその考えは間違いであったことに気づきました。患者さんを見るに当たっては様々な知識が必要であること，疾患がよくなるだけでなく患者さんの生活自体が良くならなければならないことを実感し，内科についても勉強しなければと強く思ったのです。指導医がよく「消化器内科であるまえに内科である」とおっしゃっていたのも大きく影響したと思います。

指導医に憧れながらも，入局を決めあぐねていた頃，学会での発表機会をいただき，第二内科で予行をさせていただきました。ご存知の通り，当科は消化器，腎臓，血液の３科合同の教室です。今はにっくきCOVID19の影響で行うことができていませんが，当科の学会発表前の予行は３科の医師全員を前にして行うことになります。そこで消化器のみならず，腎臓・血液からの，専門医でも戸惑うような鋭い指摘をうけ，専門にだけ特化するだけなく内科として全身をみることを教えてくれる科であると実感し，入局を決意しました。

私は今，消化器内科のなかでも特に肝臓を専門に診療（勉強）をさせていただいております。肝臓病学をみますとＣ型肝炎がほぼ撲滅に近づいており，かつてのウイルス性肝炎から薬剤性や代謝性など全身と関連した肝疾患の比率が増えてきているように思います。幸い当科は第二内科という３科合同であります。このメリットを生かし，全身をみることができる肝臓内科医として日々精進していきたいと思います。

（信大平27年卒）